

注目の鉛筆艦船画約20点と

実物の艦内新聞が

大阪護國神社に集結。

孤高の鉛筆艦船画家による

臨場感と躍動感あふれる作品と、

艦内生活を今に伝える

貴重な資料との共演が、ここに開幕!

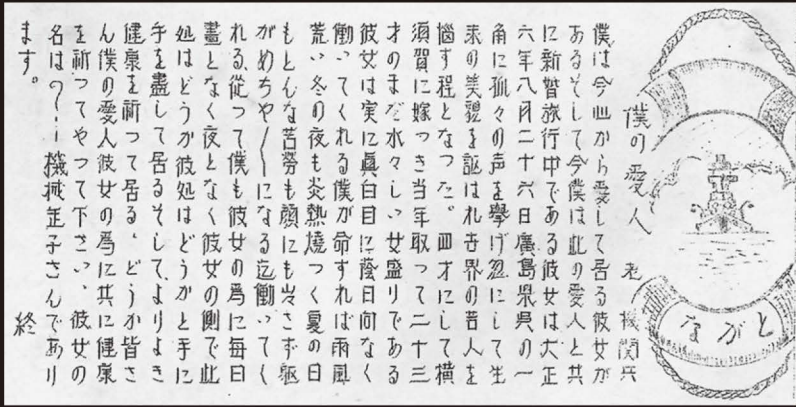
菅野泰紀は、鉛筆艦船画家として15年にわたり活動を続けています。彼の活動の目的は、絵画奉納による慰霊顕彰です。鉛筆で描かれたモノトーン作品の多くは、大日本帝国海軍の艦船や航空機。彼はそれらを艦内神社*1の分霊元神社や関連施設に奉納寄贈する活動を続けています。

「艦船や航空機を描いた鉛筆画は、それらの肖像画であると共に、そこに乗り組んだ将兵たちの肖像画でもある」と菅野は語ります。

迫力ある艦船の威容だけでなく、その艦上に小さく描かれた乗組員の姿も、菅野作品の大きな魅力。彼の鉛筆艦船画は、観る人々の心をつかみ、そして先人たちが歩んだ激動の歴史を再考するきっかけを与え続けています。

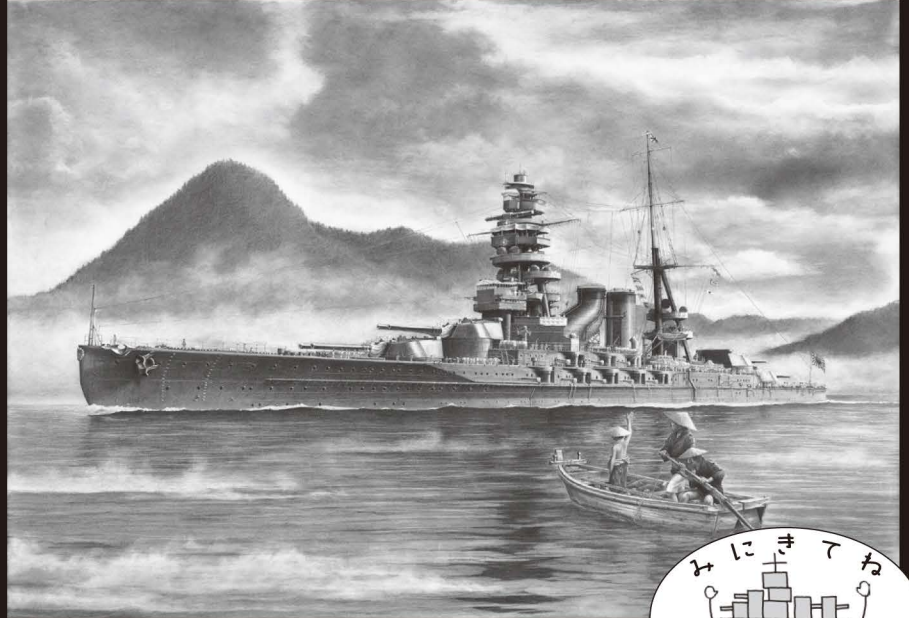
大阪護國神社ではこの度、大日本帝国海軍艦艇を描いた鉛筆艦船画約20点を展示します。また合わせて海軍艦艇内で発行された艦内新聞に関する展示(実物展示も含む)も同時に行います。精緻かつ繊細でありながら臨場感と躍動感あふれる鉛筆艦船画と共に、艦内新聞に掲載された様々な記事を紐解くことで、戦史や戦記ではうかがい知れない歴史の一端を感じられることでしょう。マドロス*2たちの等身大の姿にぜひ思いを馳せてみてください。

*1 航海の安全と武運長久のために艦内に祀られた神棚
*2 オランダ語で船乗り



昭和14(1939)年3月13日に発行された長門新聞49号の投稿記事

戦艦長門の機関室に配属された乗組員が投稿した「僕の愛人」という記事。担当する機関に「機械缶子」と名前をつけて擬人化する文面から、投稿者の機関への並々ならぬ思いが伝わってきます。



鉛筆画「憧 憧 われは海の子 戦艦 長門 2588」



鉛筆艦船画家 菅野 泰紀 (すがの ひろゆき)

昭和57年12月23日生まれ

ART STUDIO 楓 -fu-

〒544-0031 大阪府大阪市生野区鶴橋1-1-36
電話：06-6717-3565 FAX：06-6731-2906
E-mail：jakee.sgn@gmail.com
ウェブサイト：http://artstudio-fu.com
facebook：https://www.facebook.com/artstudiofu
X(旧Twitter)：https://x.com/ArtStudiofu

奉納・寄贈先一覧

絵画奉納：愛知縣護國神社・出雲大社・市房山神宮里宮神社・射水神社・石清水八幡宮・風櫃温王殿(台湾澎湖島)・大國魂神社・大阪護國神社・大和神社・樺原神宮・香取神宮・熊野那智大社・熊野本宮大社・護王神社・住吉神社(山口)・龍田大社・建水神社・椿大神社・日岡神社・日吉大社・広島護國神社・靖國神社・矢作神社・龍山寺(台湾澎湖島)
絵画寄贈：岩国航空基地・呉市・呉地方総監部・公益財団法人三笠保存会・公益財団法人モラロジー・道德教育財団・護衛艦 こんごう・戦艦ミズーリ記念館(ハワイ)・マーシャル諸島共和国立アレレ博物館ほか(すべて50音順)

大阪護國神社 社務所にて
『菅野泰紀
鉛筆艦船画集』
を販売中!



鉛筆艦船画集 ¥4,400(税込)
鉛筆画79点+解説/160ページ

ご依頼による制作料や、複製画・関連商品などの売上げは、全額を基金としています。菅野はそれを元手とし、艦内神社の分霊元神社、慰霊顕彰に尽力される神社や、関連施設などへの奉納や寄贈活動を継続しております。

皆様からの制作のご依頼やグッズのご購入は、今後の奉納・寄贈による慰霊顕彰活動を継続するための大きな力となります。私の作品をお手元にお持ち下さる皆様の思いと共に、艦の肖像画を然るべき形で奉納します。

大阪護國神社

〒559-0015
大阪府大阪市住之江区南加賀屋1-1-77
TEL：06-6681-2372

詳細は大阪護國神社ホームページでご確認ください
→ <https://www.osakagokoku.or.jp/>



アクセス

- 電車でお越しの方
 - 大阪メトロ四つ橋線・南港ポートタウン線(ニュートラム)「住之江公園」駅1番出口すぐ
- バスでお越しの方
 - 大阪シティバス「地下鉄住之江公園」すぐ
 - 南海バス「住之江公園駅前」すぐ
- お車でお越しの方
 - 新なにお筋を南向きにお越しいただき、左折にて駐車場にお入りください。(新なにお筋は右折での入庫はできません。また住之江通りからは駐車場に入れません。)

